



優良道材の行方

赤間 兵悦

“道材”の名で愛称されている北海道産広葉樹材も優良材が最近めっきり少なくなったといわれている。林検開始当初（昭和10年頃）各地に見られた2～3尺丸の優良材（当時は特、一、二、三、四等、等外の6階級区分で特等材と呼んでいた）も、今では極めて稀にしか目に止まらなくなった。しかし、人間の勤にはとかく重大な錯覚を伴うことが多いので、優良道材の行方を統計的に調べてみるのもあながち無駄ではなからと考査してみた。

その結果、昨29年度と5年前の25年度といった、たった4年間のへだたりにも拘らず、次のように、意外に大きな変化が起きていることを発見した。

先づ第一に、道産広葉樹素材の総生産量については25年度を基準(100)とすれば29年度は138で約3割8分の増産となっている。

しかるに、大丸太（直径1尺以上）については、僅かに1割8分の増産に止まっている。

このことは、材が一般に細くなつたこと、材価の高騰によって中小丸太の利用が促進されたこと、などを意味しているのではなからうか？

第二に、大丸太の品等別検査数量については、25年度の各等級別数量を夫々100とすれば、昨29年度は、1等材（54）2等材（89）3等材（109）4等材（127）となつている。

このことは、昭和28年12月の検査規格の改正によつて、上級品等材が厳選されていること、優良材が減少していること、3～4等の下級材も値上りと需要量の増大によつて結構売物になつていることなどを意味しているのではなからうか？

第三に、大丸太の形量検査材については、25年度の100に対して、29年度は一躍755に増大している。

この形量検査数量は、所謂一貫作業業者（造材と製材の兼業者）が自ら造材した素材を自分の工場資材に充てたものである。

従つて、工場経営者としては、極く最近まで優良素材を高値で他に転売し、原木コストを引下げていたものが、急に方針を変えて、自分の工場資材に充てていること、優良材からの製品でなければ、還金が容易でないこと、優良材でなければ加工業としての利益が挙げにくいことなどを意味しているのではなからうか？

第四として、これらの道産広葉樹素材を原料とする製材、合板、単板、及び床板などの道内生産統計に目を転じてみよう。

昭和25年度の生産量を100とすれば、昨29年度は、

製材	一般製材（91）	合板（111）
	輸出材（146）	単板（114）
	枕木（165）	床板（130）

となつている。

これは、夫々の製造業の消長を示しているものと思う。即ち床板生産業が全般的に好調で、製材又は枕木を主体とする製材業と、輸出とか車輦用の所謂高級合板を主体とする合板業以外の加工工場は、いずれも余り香ばしくなかつたことを意味しているものと思う。

以上は、何れも道産広葉樹材全についての統計によるものである。

従つて、各論的に各樹種別にはどんなことになつていたか、又優良材はどの方面に重点的に消費されてきたかについて一言してみよう。

先づ、ナラについては、何んといつても輸出製材業が隆盛を極め、ナラの優良材は挙げてこの製材工場に消費されたといつても過言ではない。製材とは反対に、ナラ単板は無惨な敗退を喫している。

道産主要廣葉樹材の樹種別生産量調

区分	年度	ナラ	ヤチダモ	セシ	カツラ	マカバ	他カバ	シナ	ブナ	ニレ	其他	計	比率	摘要		
素材	総計(径込)	25	1,289,538	336,537	425,177	249,636	124,024	109,624	496,171	95,015	149,863	225,310	3,500,895	100	検査統計による	
		29	1,281,232	297,332	483,078	248,571	134,344	282,426	834,537	427,962	292,070	547,531	4,829,083	137.9		
	同上中の尺上機内訳	一等	25	254,740	120,599	145,710	74,723	43,014	17,511	135,204	12,839	23,895	32,481	860,716		100
			29	95,195	51,179	90,839	34,013	27,575	15,312	98,673	33,881	11,820	7,213	465,700		54.1
		二等	25	474,011	121,284	151,563	98,477	44,004	26,263	177,720	24,388	54,450	60,297	1,232,457		100
			29	273,063	85,972	145,599	85,583	46,689	48,123	226,908	54,502	47,234	84,588	1,098,261		89
		三等	25	420,577	70,113	96,983	63,235	26,307	24,915	128,030	35,230	53,612	59,014	978,016		100
			29	312,110	58,211	102,272	68,888	27,507	63,981	94,571	72,123	74,970	94,571	1,064,191		108.8
		四等	25	65,523	5,691	9,547	5,490	2,989	4,783	10,158	5,231	8,393	5,261	123,066		100
			29	61,822	6,421	12,755	6,646	2,861	11,360	12,128	10,796	10,471	12,128	156,594		127.2
	形量尺上計	25	53,457	10,750	12,396	5,208	4,010	5,877	15,791	6,362	5,845	8,203	127,899	100		
		29	368,580	49,274	81,104	35,461	17,740	62,463	94,892	64,707	83,350	94,892	965,444	754.8		
	製材	25	309,766	58,588	62,318	53,411	14,337	26,024	38,873	8,233	36,586	112,137	720,273	100		
		29	250,634	44,632	49,131	37,157	9,419	48,279	58,044	13,082	60,563	84,803	655,744	91.0		
吋材	25	270,473	3,186	10,505	6,872		30,201	282	5,804	3,044	159	330,526	100			
	29	327,865	7,927	14,696	1,778		51,362	4,186	29,541	36,631	7,598	481,584	145.7			
枕木	25	95,944	9,916	9,894	5,661	63	577	—	1,403	21,299	4,086	148,843	100			
	29	90,871	12,988	11,422	5,162	21	1,660	86	32,224	54,786	35,689	244,919	164.5			
合板	25	3,819,372	11,185,497	30,165,111	—	2,595,805	66,277,586	20,680,076	—	4,072,675	101,174,843	100	生産統計による			
	29	3,669,853	3,853,880	45,333,622	—	11,994,493	46,351,151	235,008	—	796,915	112,234,922	110.9				
単板	25	4,831,706	7,543,648	23,424,152	—	9,662,535	66,277,586	20,680,076	—	12,872,961	145,292,664	100				
	29	653,792	3,691,023	18,780,347	—	24,786,323	69,159,033	44,638,480	—	3,249,842	164,958,840	113.5				
床板	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	273,501	100			
	29	164,588	12,703	6,779	—	—	34,517	11,738	55,144	—	68,821	354,290	129.5			

- 備考 1. 吋材、合板及び単板の三種はマカバ、他カバの区分判然とせずカバ類の意味である。
 2. 25年度の床板は樹種区分判然とせず。

次にヤチダモについては、製材、合板、単板のいずれの業態においても、全般的に見はなされた感が深く殊に、合板及び単板では3分の1乃至2分の1に減少しているのが目立っている。従つて、ヤチダモの優良材は、道内においては各業態に分散消費され、造船用又は車輛用として道外に移出されて活路を見出したものも多いことであろう。

センについては、輸出もの主体の合板が5割増産で群を抜き、材によし、枕木によして好調である。但し、単板（単板工場のみ生産量である）が合板の隆盛に比例せずに置いて歩かれている。従つて、センの優良材は、主として輸出合板工場に消費されたものと思う。

カツラについては、輸出材が4分の1に激減し、一般製材が3割減となり、全く八方塞がり、物凄く人気ガタ落で気の毒にたえない。従つて、カツラの優良材は、各方面に分散消費されたものと思う。このように急に人気の落ちたカツラは、むしろ減伐するのが親心というものでなからうか？

カバについては、製材によし、合板によし、床板によして、我が世の春を謳歌している。中でも輸出又は車輛などの所謂高級合板と思われるものが4倍半の急増であり、単板においても2倍半の増産振りである。従つて、マカバの優良材は挙げて高級合板用に消費されたものと思う。なお、輸出材としてのカバは、白味のカバが賞揚される関係上他カバが多く、他カバの

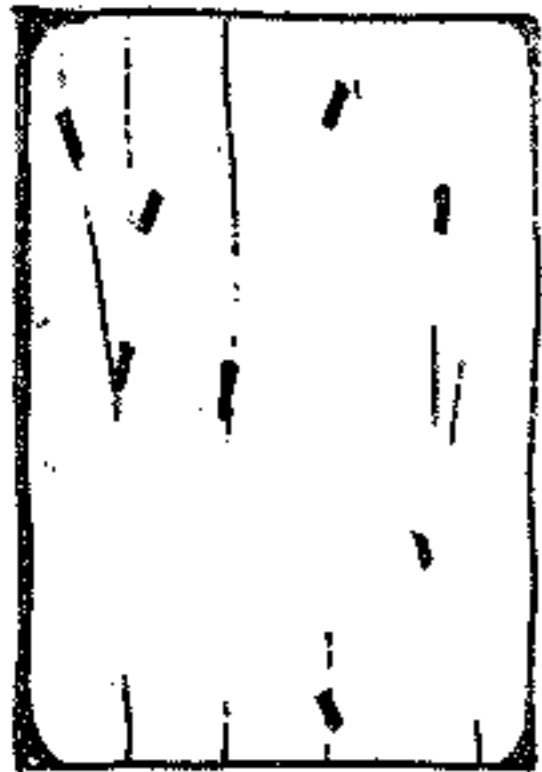
優良材は総て輸出材用に消費されたものといつて差支えなからうか？

シナについては、素材が約4割の減産にも拘らず、製材、合板、単板いずれにも能く使われており、中でも、シナの材が20倍にも伸びていることは刮目すべき事柄である。従つて、シナの優良材は、主として合板工場に消費されたことは例年どおりであるが材用にも消費され始めたことに特に注意すべきでなからうか？

ブナについては、素材で2.8倍の増産があり、材としては約5倍、枕木は3.2倍、単板は2.2倍の増産になつている。しかるに、不思議なことに合板は10分の1にガタ落している。従つて、ブナの優良材は主として単板又は材用に消費されたものと思う。なお、単板の増産は恐らく安物合板の芯板として使われるためであろう。

ニレについては、素材が約5割の増産、材が1.2倍、枕木が2.6倍、一般製材が1.7倍と何れも急速な伸展振りである。これは、恐らくニレの格安なよさが各方面に認められ、確固たる需要層をキヤッチできた結果と思う。なお、ニレの優良材は材に主として消費されたものと思う。

以上は道内の木材加工業の生産実績による判断であるが、道外に移出された優良道産材の行方もまた大同小異ではなからうか？（道庁林業指導課）



風洞循環式単板乾燥室について

中 道 正 徳

単板の乾燥装置として乾燥機（特に一ロードライヤー）の優れているのは既に常識となつている。製品の品質、作業の流れ、熱効率等何れの点より観ても、乾燥室に比べて遙かに秀れている様に思われる。しかしながらドライヤーの設置には多額の経費を要する為、小規模の単合板工場では手が出ない現状である。又近年合板適材の払底により、合板の表板を薄くする傾向になつてき、これに伴つて必然的に中芯用の単板が厚くなるのであるが、この厚単板の乾燥には、ドライヤーの外に乾燥室を併置することが望ましいから、依然として乾燥室の存在価値は

無くなつていない。

当所に於て、数年来所謂干鳥式及びこれの改良型として、横流前進式の乾燥室を試作して種々検討を加えてきたのであるが、送風機は何れもプロペラファンを使用したため、空気の循環能力が極めて低く、送風装置の弱体が痛感されたので、此の度、特に風量の豊かな多翼送風機を採用して、風洞循環式と名付けた型式による乾燥室を試作してみた。

この型式による単板乾燥室は従来、合板工場によく採用されてきたものであるが、何れも単板台車を10～30台も収容し得る長大なものが多く、これに比較して

優良道材の行方 赤間兵悦

“道材”の名で愛称されている北海道産広葉樹も優良材が最近めっきり少なくなったといわれている。林検開始当初（昭和10年頃）各地に見られた2~3尺丸の優良材（当時は特、一、二、三、四等、等外の6階級区分で特等材と呼んでいた）も、今では極めて稀にしか目に止まらなくなった。しかし、人間の勘にはとかく重大な錯覚を伴うことが多いので、優良道材の行方を統計的に調べてみるのもあながち無駄ではなかろうと考え調査してみた。

その結果、昨29年度と5年前の25年度と言った、たった4年間のへだたりにも拘らず、次のように、意外に大きな変化が起きていることを発見した。

まず第一に、道産広葉樹素材の総生産量については25年度を基準（100）とすれば29年度は138で約3割8分の増産となっている。

しかるに、大丸太（直径1尺以上）については、僅かに1割3分の増産に止まっている。このことは、材は一般に細くなったことと材価の高騰によって中小丸太の利用が促進されたこと、などを意味しているのではなかろうか？

第二に、大丸太の品等別検査数量については、25年度の各等級別数量を夫々100とすれば、昨29年度は、1等材（54）2等材（89）3等材（109）4等材（127）となっている。このことは、昭和28年12月の検査規格の改正によって、上級品等材が厳選されていること、優良材が減少していること、3~4等級の下級材も値上りと需要量の増大によって結構売物になっていることなどを意味しているのではなかろうか？

第三に、大丸太の形量検査材については、25年度の100に対して、29年度は一躍755に増大している。

この形量検査数量は、所謂一貫作業業者（造材と製材の兼業者）が自ら造材した素材を自分の工場資材に充てたものである。

従って、工場経営者としては、極最近まで優良素材を高値で他に転売し、原木コストを引下げていたものが、急に方針を変えて、自分の工場資材に充てていること、優良材からの製品でなければ、還金が容易でないこと、優良材でなければ加工業としての利益が挙げにくいことなどを意味しているのではなかろうか？

第四として、これらの道産広葉樹素材を原料とする製材、合板、単板、及び床板などの道内生産統計に目を転じてみよう。

昭和25年度の生産量を100とすれば、昨29年度は、

製材	一般製材（91）	合板（111）
	輸出インチ材（146）	単板（114）
	枕木（165）	床板（130）

となっている。

これは、夫々の製造業の消長を示しているものと思う。即ち床板生産業が全般的に好調で、インチ板又は枕木を主体とする製材業と、輸出とか車輛用の所謂高級合板を主体とする合板業以外の加工工場は、いずれも余り香ばしくなかったことを意味しているものと思う。

以上は、何れも道産広葉樹材全についての統計によるものである。

従って、各論的に各樹種別にはどんなことになっていたか、又優良材はどの方面に重点的に消費されていたかについて一言してみよう。

まず、ナラについては、何といたっても輸出インチ製材業が隆盛を極め、ナラの優良材は挙げてこのインチ材工場に消費されたといっても過言ではない。インチ材とは反対に、ナラ単板は無惨な敗退を喫している。

道産主要広葉樹材の樹種別生産量調

- 備考 1. インチ材、合板及び単板の三種はマカバ、他カバの区分判然とせずカバ類の意味である。
2. 25年度の床板は樹種区別判然とせず。

次にヤチダモについては、製材、合板、単板のいずれの業態においても、全般的に見はなされた感が深く殊に、合板及び単板では3分の1乃至2分の1に減少しているのが目立っている。従って、ヤチダモの優良材は、道内においては各業態に分散消費され、造船用又は車輛用として道外に移出されて活路を見出したものも多いことであろう。

センについては、輸出もの主体の合板が5割増産で群を抜き、インチ材によし、枕木によしで好調である。但し、単板（単板工場のみ生産量である）が合板の隆盛に比例せずに置いて歩かれている。従って、センの優良材は、主として輸出合板工場に消費されたものと思う。

カツラについては、輸出インチ材が4分の1に激減し、一般製材が3割減となり、全く八方塞がり、物凄く人気ガタ落ちで気の毒にたえない。従って、カツラの優良材は、各方面に分散消費されたものと思う。このように急に人気の落ちたカツラは、むしろ減伐するのが親心というものではなからうか？

カバについては、製材によし、合板によし、床板によしで、我が世の春を謳歌している。中でも輸出又は車輛などの所謂高級合板と思われるものが4倍半の急増であり、単板においても2倍半の増産振りである。従って、マカバの優良材は挙げて高級合板用に消費されたものと思う。なお、輸出インチ材としてのカバは、白味のカバが賞揚される関係上他カバが多く、他カバの優良材は総て輸出インチ材用に消費されたものといって差支えなからうか？

シナについては、素材が約4割の減産にも拘らず、製材、合単板何れにも能く使われており、中でもシナのインチ材が20倍にも伸びていることは刮目すべき事柄である。従って、シナ優良材は、主として合単板工場に消費されたことは例年通りであるがインチ材用にも消費され始めたことに特に注意すべきではなからうか？

ブナについては、素材で2.8倍の増産があり、インチ材としては約5倍、枕木は32倍、単板は2.2倍の増産になっている。しかるに、不思議なことに合板は10分の1にガタ落ちしている。従って、ブナ優良材は主として単板又はインチ材用に消費されたものと思う。なお、単板の増産は恐らく安物合板の芯板として使われるためであろう。

ニレについては、素材が約5割の増産、インチ材が12倍、枕木が2.6倍、一般製材が1.7倍と何れも急速な伸展振りである。これは、恐らくニレの格安なよさが各方面に認められ、確固たる需要層をキャッチできた結果と思う。なお、ニレの優良材はインチ材に主として消費されたものと思う。

以上は道内の木材加工業の生産実績による判断であるが、道外に移出された優良道産材の行方もまた大同小異ではなからうか？（道庁林業指導課）